

令和6年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名：富山大学

代表学生：林 健太郎

指導教員：張 勁

<p>研究題目 (応募部門)</p>	<p>能登半島地震の沿岸生物への影響調査～イガイ類・アオリイカ等を指標として～</p>
<p>研究概要</p>	<p>令和6年能登半島地震により、富山県では観測史上最大となる震度5強が観測され、富山湾沿岸全域での津波、地滑りが確認されている。今回の地震が沿岸域の生物や食物網に与えた影響が懸念されており、この地震によって海中の環境が変化し、沿岸全域の食物網が変化する可能性も考えられる。そこで本研究では濾過摂食者であり沿岸海域の指標とされるイガイ類と沿岸食物網の上位にいるアオリイカを対象とし能登半島地震が富山県の沿岸食物網に与えた影響の評価を目的とする。</p>
<p>これまでの活動状況と今後の活動予定 (300字程度)</p>	<p>本研究では、富山湾沿岸域を対象に2か月に1回の頻度でイガイ類を採取し、炭素・窒素安定同位体比を分析した。また、富山県内五大河川において河川水を採取し、酸素・水素安定同位体比を分析した。今後は富山湾内各所でアオリイカの採取や河川水に含まれる溶存成分の分析も行う。さらに、イガイ類の殻に含まれる微量元素の測定を計画している。本年12月下旬までは継続した試料採取と分析を続けるとともに、これまで得た分析結果から、能登半島地震前のデータと比較し、能登半島地震が富山県の沿岸食物網に与えた影響の評価を進める。</p>
<p>当初予定と変更がある場合は変更点を記述ください。</p>	<p>イガイ類の筋肉に加え、殻の微量元素の測定を計画している。それに伴い、資金計画の交通費、諸経費に変更が生じる。また、富山湾との比較のために、特に津波被害が甚大であった石川県珠洲市飯田町でも試料を採取した。</p>



写真1:イガイ採取の様子

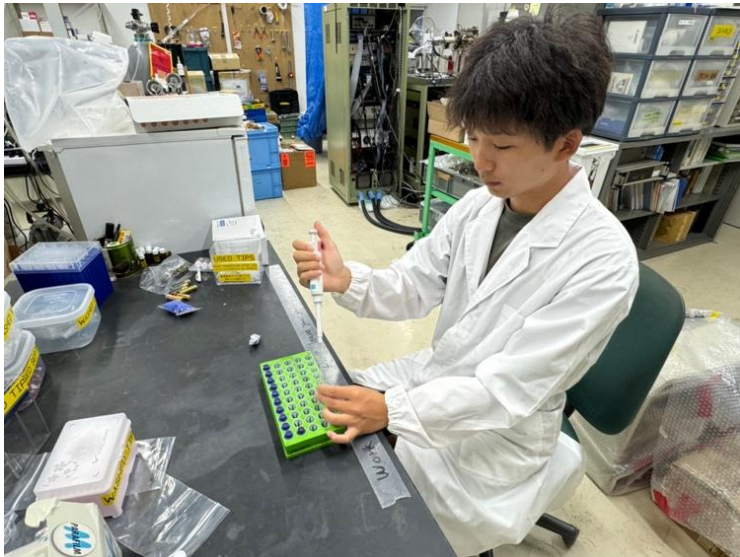


写真2:水の安定同位体比の分析の様子



写真 3: 富山県西部沿岸域の様子